

# 令和元年度 第1回 池田市総合教育会議 議事録

日 時：令和元年5月10日（金）午後3時30分～午後4時30分

会 場：池田市役所 3階 議会会議室

出席者：富田市長、田渕教育長、山岸委員、河野委員、小林委員、木村委員

＜事務局＞

15人

傍聴者：0人

## 1. 開会の挨拶

＜市長＞

- ・改めてよろしくお願い申し上げます。皆様、教育現場に関わるプロの方だと思っている。本日は大変恐縮ではあるが、市長としての私の教育に対する方針、考え、想いを共有させていただきたい。

## 2. 議事

### ・教育施策について

＜市長＞

- ・教育長とは、教育方針について膝詰めで話をした経緯がある。今日は、教育委員の皆様の、教育に関する考え方や、私がバックアップすべきことについて、現場の声をいただきたいと思っているが、まずは、私の教育に関しての考え方をお伝えしたい。
- ・私は、実は教育に対する強い思いを持って政治の世界に入った。教育が良くなれば社会も良くなる、その本質は教育現場にあると私なりに哲学を持っている。大学院では主に、今の日本の教育課題がどこにあり、本質的に何をどうすべきかということをもとに迫っていくために、私なりにいろいろな政策を勉強していた。元事務次官、教授など、いろいろ第一線に立たれている方の話を聞き、日本における義務教育は、諸外国と比べても比較的素晴らしい環境にあるが、大学教育のあり方、教育環境から出た後の社会への適合などに課題があると認識している。また、実際に教育を教える教員の質というと失礼があるが、質の向上が、現場に素晴らしい教育環境の果実を与えらると思う。今後、国レベルで取り組まなければならないポイントはそういうところにあると思う。
- ・プロの皆様を相手に恐縮だが、具体的にお話しさせていただく。戦後からの日本は、都市の発展や大量生産・大量消費を促すため、だれもが同じことを最低限できるような、画一的な人間を安定的に輩出することによって豊かな社会を実現してきた。このような背景がある中で、今後、成熟した日本社会では、産官学のあらゆる場面でパラダイムシフトが起きる。ブレイクスルーできる新たな発想を持ち、それを体系化できる人間を輩出することが、日本社会にプラスをもたらす。また、それが国際社会や、世界の発展への貢献となる。日本がそういう人物を輩出していかねばいけない中で、やはり重要になってくるのは、違いを認めることや、一つ決めたことを形にする力、新たなことへのチャレンジだと思う。人間の本質の部分、徳育の成就が成熟、体系化されることで、そういう人物が社会に輩出され、いろいろな場所で新たな物事を作り、動かす。その場が企業であれば雇用が生まれ、新たなものが

作られる。そういう人物をいかに輩出するかが、これからの日本社会には大変重要だと思っている。

- この話を、なぜ池田でしたのかには理由がある。私は、池田生まれ、池田育ちではない。伊丹で生まれ育って外部から池田を見てきたからこそ、わかるものがある。やはり池田市の教育環境の水準は本当に素晴らしい。それは、皆様のこれまでの尽力の現れであり、また、これまで市政が伝統的に教育行政に重きに置いてきたという経緯があつてのこと。だからこそ、教育環境が優れる池田市には、他市に先んじ、これからの日本社会、教育行政の課題解決を担うモデルになれるような、バックボーンがある。だからこそ、池田で日本一をめざすことが社会的にも意義がある。池田だからこそできるという使命感、志を私は勝手に持っている。
- そこで、ぜひ皆様をお願いしたいことが二つある。まず一つは、これから求められる人物像は、金太郎飴ではなく、新しい物事を形にし、社会を引っ張り、思いやりがあり、社会や故郷を想い、正義、勇気、感謝、思いやり、礼節、利他心、公德心など、すべての道徳を備えた、素晴らしい人物であると考え。このような人物を輩出していくことに、ぜひ力を入れていただきたい、というのが大きな方針の一つ。もう一つは、池田が進める教育行政を、日本社会のモデルケースとして、課題解決につなげるため、ぜひその志を私とともにしていただきたい。この二つは大きな方針の骨子になる。現場のプロである皆様に、それを何とかしていただけないかと思う。もちろんそれがすべて池田市の子どもたちのためになるということが大前提。それ以上をめざせるほど、高い志を持てるような、池田市の教育行政環境を皆様が作ってこられた。ここから先は、ぜひその道を歩んでいただきたい。
- さらに教育を充実させるために、私が重要だと思うことを簡単に言うと、給食センターの早期開設と給食内容をさらに美味しく温かく満足度の高いものにすることと、学校図書館の充実。教育環境日本一をめざすにあたり、近隣市と比べると、図書数においてもトップランナーとして走っていくべきだと思う。また、特に特別支援教育の充実、インクルーシブ教育にも注力していただきたい思いもある。その教育環境の中で、ノーマライゼーションの実現にも平行して取り組んでいただきたい。
- 教育行政が担う社会的役割は大きく、まちづくりへの参画など、他市に先んじてやれることが池田には沢山あると思う。まちづくりへの参画の意識というものを、教育にリンクさせ、ぜひ取り組んでいただきたい。塾代助成バウチャー、ふくまる塾などいろいろあるが、その塾代助成の拡大にも取り計らっていただきたい。もちろん、予算をどれだけ投じられるのかという問題もある。小中一貫校の整備の促進も行っていきたい。やはり、小学校から中学校へ移るため時期の切れ目のない精神的なバックアップは重要。子どもたちそれぞれの顔が見えた教育を行っていくためには、整備促進は重要だと思う。ICT教育の徹底した導入も先駆的に走って行っていただきたい。教育機会が平等に担保されているかどうかというところにも、目を光らせていただきたい。副校長の設置についても、検討をお願いしたい。
- 教育に民意を反映させる体制の整備についても、具体的な施策として立案し、PTAとの連携の強化につなげたい。池田は他市に比べてPTA活動が活発だが、全国的にはそうではない。抜本的な課題解決を担えるのは池田だと思う。民意を反映させる仕組みというのを一度見直していただきたい。
- 英語教育の環境充実はもちろん図っていただきたいが、特に国際理解教育の強化を取り入れていただきたい。英語を理解することも大事だが、日本・国際社会の若者が、どんな形で、

どんな志で、どんな思いを背負い、どんなことを考えるべきなのか。国際社会を理解するために、英語の必要性も出てくる。私もいろいろ勉強し、日本の若者と世界の若者との違いを調べたり、意見を聞いたりすると、日本の若者と海外留学生などは全然違う。海外から来る人はその国を背負って勉強しに来ている。日本の若者たちは私もそうだが、とても豊かな社会で育っており、それは先輩方の努力のおかげだが、池田の若者たちに、世界をもっと知ってもらうことによって、すべてが大きく変わっていくのではないかと思う。この取組もぜひ強化していただきたい。

- 小学校5、6年生の35人学級の実現についても、現場に検討の余地があるのか、総じてご意見いただきたい。ここに関しては予算も必要。その必要性についても検討課題として頭に入れておいてもらいたい。
- 教員の能力向上のための教育研修強化については、教員の質をさらに高めるために、必要だと思う。教員の元々持っている資質は高いと思うし、勉強も努力もされている。ただ、民間の空気感、民間の常識・水準というものに触れていないが故に、大学を出て研修を受けて、民間経験もあるかもしれないが、実際の肌感覚がないことによる現場のズレが出てくると思っている。多くの子どもたちを迎え入れ、彼らの大多数を民間の社会に送り出すのに、この感覚を教員が理解していない。ここにズレが生じている。これは国の問題であり、教員の制度設計の問題になってくると思うが、ここに関しても池田で何か取り組めないか、ぜひお願いしたい。
- 教職員の事務負担軽減にも徹底的に取り組んでいただきたい。私の父も教員だったので、教員生活については子どもながら見ていた。今の先生方は非常に忙しい。子どもたちと向き合う時間がなかなか取れない。いろいろな縛りがあり、先生方が本当にやりたい教育指導ができない現状を聞いたことがある。教員が子どもたちと向き合い、教育指導ができる環境整備が大事だと思う。事務負担のさらなる軽減について、何とか新たな仕組み・方法が取れないか、ぜひお願いしたい。
- 校長の選任制度というのは、今、良い形であると思うが、改変の余地が有るのか検討していただきたい。
- 最後は、情操教育をいかに多様化させていくのかということ。これに関してはぜひ取り組んでいただきたい。道徳教育というのは、なかなか難しいと思うが、人はやはり人で磨かれていくものだと思う。座学でいろいろなものを見るよりも、実際に社会に出ていろいろなものを成し遂げた人たちと出会ったりすることによって、イメージができる。私も小さい頃、どんな人物、人間になったら良いのかイメージを持っていなかった。あえてそこを先導してしまう教育も問題かもしれないが、例えば、勇気を持つ人や、思いやりを持つ人とはどんな人か、見せてあげることや触れさせてあげること、こんな人なのかということがわかる。そのための情操教育の多様化というのが非常に重要だと思っている。その取組に関してもぜひ力をいれていただきたい。
- 冒頭にお話ししたように、人を思いやり、社会を引っ張り、助けられるリーダーを輩出できる教育が、今後、社会に求められていくと思う。ぜひ、私の大きな方針と細かい内容も踏まえ、皆様に力を発揮していただきたい。それを私は行政という立場で、バックアップさせていただきたい。私は維新の首長という立場で、今までのものをぶった切るようなイメージがあるかもしれないが、決してそうではなく、今までの良きものを守りながら、変えるべき所

を変えていくという姿勢。皆様の現場の多様な意見をいただいた中で、慎重かつ迅速にさらに向上させていきたいという思いがある。皆様にも、率直なご意見を賜りたい。

#### <委員>

- ・今日はじめて市長の考えをお聞きした。大筋は、新しいことができる、思いやりを持てる、リーダーシップを発揮できるなど、そういう人物を育てる教育をしていかないといけないと考えておられるということ。それはその通りで、底上げというか均等な教育だけでなく、個性を伸ばすなど、そういうところも大事という気がしている。もちろん、最低限の底上げは必要だと思うが、ある程度平均的な能力を備えさせた上で、さらに何かそれぞれの個性を伸ばしていけるような教育が義務教育で小・中学校でできれば、理想的なのかという気がしている。どこまで個性を伸ばすことができるのかというのは教育機会の均等・平等という課題もあるので難しいところでもある。少し話はそれるが、以前、ほそごう学園でゴルフをしてはどうかという話があった。ゴルフ場もあり、得意な子を伸ばすことができると話だったが、そんなことも可能なら実現しても良いかと思う。
- ・市長はいろいろと具体的に考えておられるようだが、概ね私もそうだと思う項目が多かった。やはり、これから教育をどうしていくかということについては、大学を出て社会人になりたての若い人を見てみると、確かに知識とかを持っているのかもしれないが、それを使う能力、あるいは人と上手くやっていける能力がちょっと足りないような気がしている。やはりコミュニケーション能力は大事。これが何をしても必要であって、人に上手く情報を伝える能力、相手とか周りの人の考えていることを上手くくみ取る能力というのが非常に大事なのかと思う。これが、先ほど市長がおっしゃっていた思いやりとか、リーダーの資格というところにつながっていく。
- ・国際化もかなり進んできているので、英語教育というのはこれから義務教育でも非常に重要になってくる。今やっているスカイプでフィリピンの人と話すということは非常に効果があると聞いているので、そういうことを取り入れていったら良いと思う。大学などでの試験においても、ただの英語力だけではなく、コミュニケーション能力が求められるものになってきているので、そういうことにも対応できるような子どもを育てないといけないと思う。

#### <委員>

- ・たくさんのお話に感謝する。私自身は今研究所で働いている。個性豊かな人物を育てるというお話につながると思うが、研究所というのは、金太郎飴では何も良いものが出ない。いかに個性の違いで面白いものを見つけ出すかという能力が問われる。最終的には人間性が効いてくるのかと思う。ただ、オンザジョブトレーニングでも、非常に難しく我々も苦勞しているのが、ひとつはそういう方向にいくやる気をどう与えてやるかということ。同じことばかりするのではなくて、やはり、工夫、リーダーシップ、企画力、それらを評価することが、我々の中でも若い人を育てる際のマネジメント。それを何か良い形で教育の方に活かすことができれば、リーダーシップや企画力を発揮する人を育てることにつながるかもしれない、と市長のお話をお聞きして感じた。
- ・女性の活躍、機会の均等など、少子化がどんどん進む中で、リーダーシップを発揮できる人間も減っていると、仕事現場でも感じている。
- ・まず、貧富の差については、貧しいが、頭の良さだけでなく能力・やる気のある子どもをひ

っぱりあげないと日本の国として非常に勿体無い。そういう意味では、無償の塾とかは非常に役に立っていると思う。折角の良い原石を拾い上げることが重要な課題だと思う。

- ・次に、先生の社会感覚については、私は理系だったが、いわゆる現代社会みたいなものが非常に重要だと思う。結局、人間は社会貢献する形で生きていく。そういうことをもっと知ることが必要。しかし、一般企業に勤めている人と先生が同時に両立できるかということ、それは難しいかもしれない。例えば、社会人の方に出前教育みたいなものをやってもらおう。もちろんインターンなど、そういう教育は今も実施されていると思うが、単純に、先生方の能力を上げるのではなく、社会で働いている方の中でもそういう気持ちのある方はおられると思うので、そういう方を呼び込み、お話をさせていただくなども良いと思う。
- ・最終的に教育の中で重要なのは、社会の中の自分の位置づけを知ること。職業の選択、社会貢献など、そういうことを身に付けさせてあげることが重要だと私も思う。
- ・それと若干関係して国際社会との関係であるが、私も国際共同研究などの中で、先進国の人たちは似たところが多いが、中国とかインドネシアなどの若者の貪欲さをとても感じる。インドネシアは平均的な収入は低いですが、学生と話をしていると、日本に留学したいがどうしたらよいかなどいろいろ聞いてくる。若いのに英語が堪能なのを見ると、日本はぼんやりと育てていると感じる。そういうところをどう取り組んでいくかというのは、国際共同研究をやる中で感じている部分があるので、何かお手伝いさせていただきたい。

#### <委員>

- ・市長の大きな展望と教育に対する熱い思いに敬意を表す。平成28年度から始まって、4年目、これまでやってきたことが検証できるかどうか不安もあるが、見直していただくのもありかと思う。
- ・幼稚園の小さい時から、あれだけキラキラした目で本当に可愛い子どもたちが、今は高校まで義務教育といえるかと思うが、その間に落ちこぼれたり、いろいろな思いがあったり、家庭環境から困った大人になってしまうということが、たくさん出てきている。社会の複雑化や、そこについていけない子どもたちが、普通の教育の中で、どこでどう落ちていってしまうのか、あれだけ可愛い子どもたちがなぜそうなるのかと思う。
- ・子どもは社会が育てるといえるが、いろいろな家庭環境があるので、貧しい環境で育つ子どもたちに対しては、やはり社会全体で、池田の場合は、市を挙げて子どもたちをサポートする。貧しい子どもたちにも、塾で勉強が教えていただける環境づくりなどが進んでおり、ありがたいこと。
- ・学校の先生方は、勉強を教えるというのが主に頭にあるので、時間的にも忙しく、情操教育に時間がなかなか取れなくなっているのも大きな課題。もちろん勉強も大事だが、勉強だけがすべてではない。個々の個性を伸ばし、探究心を作っていただけたらいいと思う。先生方がよく理解してくださるとありがたいが、先生方が忙しく、文書づくりなどで時間が取れなくなっていることもあるので、そのあたりを何か工夫していかなければならない。一例では、昼食の時も先生方が子どもたちを監視している、昼食の時は先生方が離室されて、ボランティアみたいな方が入られても良いと思う。クラブ活動についても、箕面ではクラブ顧問やコーチが外部から入ってきている。お金がかかることで難しいと思うが、そういった形で先生方の負担を少しでも軽減し、勉強や情操教育に全力投球できるようになっていただきたい。
- ・民意を学校に反映させるのは、ほそごう学園でやっていると思う。民意を反映するため、校長とともに学校ウィーク等を行っており、全学校単位で地域の方やPTAの方も入って行う方法を、ほそごう学園だけが取り入れていると思うので、池田中に反映させていただいたら

良いかと思う。

- ・池田市は大阪府下では、「教育のまち池田」ということで、昔教育大学があった。現在は、阪大が石橋近辺にあるが、教育大学が移動して若者が減り、少し廃れており、そのせいで活性がなくなってきている。今回大阪府との太いパイプを持つ市長ということなので、池北もまだ決まっていない状況なので園芸高校の移動など、太いパイプの元にいい案を作っていただき、今の熱意を具体的に進めていただきたいと思います。非常に安心している。

#### <委員>

- ・教育とは、人を思いやり、人間的な成長、リーダーを育てるということであったが、それは考える力を持つことではないかと思う。市長は伊丹出身ということを知ったが、伊丹と池田というのは土地から見ても非常に良く似た、伝統のあるまちだと聞いている。お酒があり、城下町がある、とても豊かなまち。そういったまちであるからこそ、伝統を重んじるということがとても大切だと思う。それを根底に、新たなものを生み出す力をつけることが大切だと思う。その中で、情操教育や道徳はこれから成果が出ると思う。道徳というのは考える教科で、考える力を身に着けるのはかなり時間がかかるが、これから期待できると思う。
- ・小学校5・6年生の35人学級ということだが、少人数は目が行き届いて良いが、学校によっては学年のクラス数は異なり、2クラス、5クラスでは全然違うので、そこに気をつけて実現できれば良いと思う。
- ・事務負担の軽減によって、先生方の時間を能力向上に当てることができれば素晴らしい。事務負担軽減と能力向上は相乗効果でやっていければ良いと思う。
- ・ICT教育の強化については、タブレットをたくさん与えていただけており、先生方にも渡っているが、子どもたちにも渡るようになれば、さらに効果が得られると思う。
- ・時間が作れないのではなく、作っていただければと思う。情操教育の多様化ということに関しては、心の働きを豊かにすることが良い教育へと繋がると思う。

#### <教育長>

- ・ボリュームの大きいお話だった。市長が、これまでの池田における教育の取組に対して、非常に高い評価を持っていただいているということについて、ありがたいと感じる。
- ・これからの人材ということをお話をされたが、少子化、学校のグローバル化は近頃非常に感じている。ダイハツの影響もあって、多くの子どもたちが学校に入ってきており、日本語指導も必要な子どもたちもいる中で、イスラムの子どもが学校でお祈りをしたいとか、宗教上食べられないものとか、目に見えてグローバル化が進んでいる昨今である。
- ・その中で、子どもたちがこれからどんな人材に成長していったら欲しいかである。市長のお話と重なるが、知識を蓄積し、活かしていくという事は基本にあるが、これまで以上に、子どもたちの学ぶ意欲、自主性、他者との関係づくりが重要。そのためには、自分の思いをまとめ、発表する力、そこにはICTの力が当然必要になってくる。他者を思いやり、意見も取り入れながら、自分の意見をしっかりと主張して関係作りができる。さらに自分で学んでいこうとする。そういった子どもたちを、今後育てていかないといけない。
- ・子どもたちにとっては、グローバル化の中、先行きの見通しが不明な世の中になっている。その中でたくましく生きていくため、必要な力を得ることは、市長が言われたことにつながると思っている。平成28年度から、「教育日本一」をめざすための特例の予算をいただき、取り組んできたひとつひとつの施策についても、本質的な課題に適応できるような取組に、できるだけ予算を充てさせていただいている。
- ・グローバル化に対しても、日本語指導が必要な子どもたちへの支援や課題支援、英語教育、

ICT、各学校の特色づくり、こういった部分に力を入れてきたところ。教育委員会の本質的な役割としては、生涯学習にどうつなげるかということもある。

- ・小学校から始まる義務教育の前段階として、就学前、幼児教育については、この秋から、無償化が国から言われているが、それに向け、今後の本市の幼児教育のあり方、あるいは公立幼稚園のあり方、こういったことが大きな課題。
- ・市長は池田の教育にいろいろな思い入れを持っていただいている。そういう部分をこれからしっかりと考えていかなければならない。
- ・具体的な施策のひとつであるが、ほそごう学園がコミュニティスクールになって、地域の人たちも交えた学校運営協議会で、いろいろ学校運営についてご意見を賜っている。この仕組みは今後も必要かと思う。こういう仕組みを持った学校をコミュニティスクールというが、今現在ほそごう学園だけがコミュニティスクールとして機能している。他校は学校協議員という制度があるが、より多くの地域の人々のご意見を学校運営に活かしていく。もっと言うと、保護者や地域の方々が、日常的に学校教育に参画していただくような学校の姿、あるいは地域コミュニティ等に繋がるような学校運営のあり方、方向性を私自身の中に持っている。それをどう具現化していくかが今後の話。いろいろ取り組んでいる施策と絡めて、その中で地域に根ざす学校。子どもたちを、家庭、地域とともに育てる学校像。そういうものを念頭において取り組みたい。
- ・本市の教育委員は、弁護士、医師、研究者、保護者の方。それぞれの専門的な立場から、教育に対していろいろご意見をいただいているところであり、その中で定例会を開催している。

#### <市長>

- ・皆様のご意見を賜ったが、いろいろなお話の中で、コミュニティスクールを取り入れていくべきだと私も思っている。もちろん予算をつけて、事務負担軽減ができるようにしないといけないとも思っている。行政と教育現場とズレがあったら、何もならない。検証会議も速やかに形を整えるべき。もちろん、最低限の教育、最低限の知識を子どもたちに提供する大前提として、考える力を身につけることも大事。これら方向性、理念など、我々で協力することがあると思うが、それを具体化するためにどんな施策をいつ実行するのか、ときには、先例がないようなことでも果敢にチャレンジすることが、現場では必要だと思っているので、私も協力させていただきたい。教育長には果敢にチャレンジし、いろいろなことに情熱をもってやっていただきたい。
- ・私が義務教育で育ってきた中で、社会に出て20代は経験を積まなくてはいけないと思ってきた。30代前に志をしっかり立て、30代はとにかくチャレンジし、40代で結果を出す。そして50代で大成させて、60代でそれらを引き継ぐと、自分の人生計画を若いときに作った。どんな生き方をしたらいいのか、私の場合はわからなかった。どんな生き方がいいのかをはっきり教えてもらったことがない。学校の先生からは、いろいろな知識を教えてもらうが、もし、生き方や考え方を教えてもらえる機会があれば、目をむきながら授業を受けていたと思う。あるところでは世間という科目があり、お金についてや、社会に出たらどんなものが待ち受けているかという科目があるらしく、それがとても面白いらしい。子どもたちは目をむいて授業に参加していて、世間科目を担当する先生は外部から連れて来る事もあったりするとのこと。面白いし大事なことだと思う。
- ・教育現場で思ったのは学校の先生との出会いは、子どもたちの人生において重要だと思う。自分の人生を変えてくれる先生に運よく出会えた方が、生まれ変わるのも見てきたが、私もそういう先生とたまたま出会え、改心して頑張ろうと思えた。それも勉強ではなく、先生の情熱や思いやりがあり、これではいけないと思い、そこから勉強した。学校の先生の役割は

非常に大きい。生き方など、知育以外のものを伝えられるような環境を整えてあげることによって、目的が達成されると思う。

- ・先日、教育長から話のあった体験型というのは非常に良いと思う。何が人を育てるのか、いろいろ知識のある方に聞くと、突き詰めると最後に出てくるのは自然だと聞く。もちろん勉強も大事だが、大自然を前に夕日をボーっと見ているような人の方が、情操が鍛えられたりするとか、それが正しいかどうかは別として、様々な体験を施すことによって成就されたりする。
- ・自分が子どものときに刺激を受けたのはやはり同世代である。同世代の子どもが新しいことをしていると格好いいと思うが、先生にこうしろと言われることは何とも思わなかった。やはり同世代間での教育環境が重要と思う。どこかの国は、いじめ等の問題が発生した時に、学校の先生が解決に入るのではなく、高学年の生徒が下級生の問題解決にあたるらしい。
- ・何か、革新的な手法で、今までの大事なものは残しつつ、果敢にチャレンジしていただきたい。とにかく具体的な施策に落とし込むことが重要だと思う。私も行政を見直す立場として、いかに財源を生み出し、いかに教育に投資できるかが大きな仕事だと思っている。その点はプロの皆様のお力添えをいただきたい。
- ・総合教育会議は、ここで具体的なものを作り上げるということではなく、方向性を共有していく場であり、大事な要素だと思っている。

#### <教育長>

- ・教育委員会制度が変わり、この総合教育会議を実施することとなった。市長がこの会を主催し、私を含めた教育委員5人に対し、教育への想いをこの場で伝えていただく。具体的な事業、施策については、別に予算編成をしていく過程があるが、その予算編成をしていく過程の中で、市長の想いも伝えていただき、我々、教育委員、教育長の想いも逆に市長に伝えながら、その方向性を定めていこうという会議であると私は理解している。

### 3. 閉会

#### <市長>

- ・私も今は抽象的なところで終わっているが、しっかり勉強し具体的な施策を提案しながら、キャッチボールしていきたいので、よろしく願い申し上げます。これで総合教育会議を閉会する。